

IDENT 方程式名 変数名 = 算術式 ;
IDENT 方程式名 算術式 ;

機能 :

IDENT は TSP の定義式を定義します。定義式は、FIML で完全情報最尤推定をおこなったり、SIML や SOLVE でシミュレーションをするために方程式体系を完成するのに使われます。

使用法:

IDENT には2つの形があります。第1は、方程式に付ける名前に続いて、方程式が正規化された形で、つまり等号の左に従属変数をおき、等号の右に算術式がおかれます。数式はこのマニュアルの基本ルールセクションの規則に従って書かなければいけません。これらの規則は、TSP のなかで式が使われるあらゆる所 (IF 文, GENR, SET, FRML, そして IDENT) で共通です。

IDENT ステートメントの第2の形は、「陰関数形式」です。すなわち、等号はなく、ただ単に算術式だけです。これは、方程式を正規化することが出来ないかも知れない完全同時方程式モデルで用いられます。FIML と SIML プロシジャーでは陰関数の方程式を処理することができますが、SOLVE ではそれができません。

IDENT によって定義される式は、FRML で定義される式と同じですが、推定プロシジャーでは、FRML では式の最後に誤差項が付加されていると考えますが、IDENT では考えません。この違いは IDENT はヤコビアン行列を正方行列にするのに必要ですから FIML でのみ意味があります。

IDENT によって定義される方程式は、数値、パラメータ、定数、そして系列を含むことができます。方程式の値は GENR によって全ての点で常に計算することができます (ステートメントの形については GENR を参照して下さい)。方程式の値が求められるときは、パラメータと定数は計算の前に現在の値が代入され、そのときの SMPL の範囲で系列の全ての値について定義式の値が計算されます。

IDENT は TSP プログラムの最初の段階、つまりコンパイルの際に処理されます。したがって IDENT はプログラム中どこにあってもよいわけですが、異なる定義式に同じ名前をつけることはできません。その場合は最後の式だけが保存されます。

例:

次の例は、定義式によって5本の方程式からなる例示用のモデルを完成します。

```
IDENT GNPID GNP-CONS-I-G ;
```

この定義式は、GNP(粗国民生産)が CONS(消費)と I(投資)と G(政府支出)の和に常に等しい事を示しています。

アウトプット:

IDENT にはアウトプットはありません。1本の方程式がデータ保存領域に保存されます。